

【優秀賞】

ペンギンの温かさ

丸亀市立西中学校 二年 福田花音

コウテイペンギンのような思いやりの気持ちを持ちたい。そう思ったのは、何気なくスマホを見ていた時、すごく考えさせられる意見を見つけたからです。

仕事やプライベートで他の人のやりたがらないことを代わってするなど困っている人を放っておけない。自分より他の人を優先することが多く、周りの人からは優しい人だと言われる。しかしこの性格は自分を生きづらくしているのではないかと思えてしまう時があり辛い、という内容でした。

私も学校で自分より他の人を優先している人をよく見ます。私が見てきたその人たちも意見を書いた人と同じように悩んでいるのかな、と思いました。もし悩んでいてもその人が他の人を助けることはあっても助けてもらった人がその人を助けることはあまりないのかもしれない。そうやって優しい人たちが我慢しなくてはいけなくなり、優しい人が生きづらくなってしまふのではないかと考えました。

その時、コウテイペンギンのある習性が頭に浮かびました。コウテイペンギンは寒さから自分やヒナの身を守るために円陣を組みます。そのままでは外側のペンギンが凍死してしまうのでローテーションし、外側と内側のペンギンが入れ替わり、全員が平等に温め合うことができるようにしています。

この習性を知った時、すごく心が温かくなりました。自分がよければそれでいい。弱い者を簡単にいじめる。人の悪い所ばかりを見つければよいとして良い所を見つけない人間とは違うなと思いました。

人間は、いじめめる人が常に内側にいて、外側にいるのはいじめられる人、外側にいる人は優しい人ばかりです。外側と内側の間にいる人、この人達が一番大事な立場だと私は考えます。中間の人達が外側になりたくないから、ローテーションしなければいけないという自分の正義の心に嘘をつき続けながら内側の人達に無理矢理合わせていると思います。しかし外側の人を救う事ができるのは、中間に居る人達しかいないとも思います。中間の人達が勇気を出して内側の人にローテーションしようと言えないとみんなが平等に温まる事はできないと思います。外側の人で凍死してしまう前に行動しないと凍死してからではもう手遅れです。外側の人には優しくして他の人を優先し、自分の事を後回しにします。自分が苦しい時でも助けを求めず我慢することを選んでしまい、生きづらさを感じ続けます。

中間や内側の人で、辛くて耐えている人の辛さに気づき、温かさの助け合いが人間にもできれば優しい人が我慢し続ける事はなくなるのではないかと思えます。

もし外側から内側に入れたとしたら、外側にいた時の冷たさや寒さを忘れる事はできなくても、それと同時に救ってくれたことの温かさを知ることできると思えます。

ペンギンは、誰からも教えてもらっていないのに仲間を思いやる行動ができます。

人間は宗教や考え方、自分ではどうすることもできない肌の色や見た目、国籍などでたくさんの差別をし、同じ人間同士で傷つけあいま

す。

ペンギンは仲間を守るために円陣を作るのに対し、人間は排除するために自分勝手な基準で輪を作ります。内側の人が一番安全な所に居てローテーションをしないから外側の人痛みや辛さを知ることなく、ぬくぬくと生活しています。放り出された人は温もりに触れるこ

となく冷たくなるのみです。

いじめられている人や生きづらさを感じている人を少しでも減らすためには、思いやりの気持ちと、どうすれば平等にできるかを考えることが大事です。

外側の辛さは、外側になった人にしかわかりません。ときには外側になっても少しは我慢も必要だという考え方を円陣を組んでいる全員がすることができれば平等に温め合えると思います。

楽しいことだけではなく、辛いことこそ分け合って、辛さをわかち合うことが大事だと思います。

コウテイペンギンは、リーダーが指示して集まるのではなく、自然に円陣ができます。人間も一人一人が自覚を持ち、相手のために行動することが大事です。間違っていることに流されることなく、自分の考えで行動できる勇気が必要です。

コウテイペンギンのようにみんなで助け合って思い合う事ができれば生きやすいもつと良い社会になると私は考えます